入　賞

# 「福島」から「世界」へ

福島県田村市立船引中学校・2年　秋元（アキモト） 椋太（リョウタ）

東日本大震災から十年を迎えようとしています。福島県では大地震の被害に加え原子力発電所の事故と過去に前例がない出来事に見舞われました。十年たった今でもさまざまな課題があり、復興が完全に果たされたとは言い切れません。

私の故郷は双葉郡川内村です。原発事故による避難で村を離れて生活していますが、今でも私の故郷は「川内」であると日々思っています。

私たち家族は原発事故後、親戚を頼りに東京都や埼玉県で数年間生活しました。幼かった私ですが、避難先での生活は楽しい思い出ばかりです。あとになって母が、「誰も知り合いのいない土地に、しかも母子のみでの避難で不安が大きかったが、避難先の方たちが温かく迎えてくれたので感謝しかない。」と言っていました。私は、現在住んでいる田村市でも仲のよい友人に囲まれ、勉強や部活動に一生懸命取り組むことができています。

事故が起きた原子力発電所について、漠然と自分の考えを持ちながら、村役場に勤めている父に聞いてみました。父は、原子力発電所には川内村からも多くの人が働いており、たくさんの雇用を生み出していたことで人々の暮らしを支えていたことなどを教えてくれました。父の話を聞いて、一方的に「原発が悪い」とは言い切れないということが分かりました。

自然豊かな福島県ですが、農産、畜産、水産などで風評被害に苦しめられてきたことも事実です。しかし、私はこの豊かな自然を有効活用することで、福島県を発展させることができると考えています。福島県には、メガソーラー発電、バイオマス発電、風力発電、地熱発電、水力発電など「再生可能エネルギー」を生み出す施設が県内各地にあります。私は本県で取り組んでいる「再生可能エネルギー先駆けの地」をより一層推進して世界に発信したいと考えています。これまでの基幹エネルギーの化石燃料や原子力に比べ、エネルギー変換効率が低いことや天候に左右されやすいなどの短所がありますが、県全体を見渡してバランス良くエネルギーを生み出したいと考えます。そのために実施事業者がある市町村の横のつながりを強化し、県がリーダーシップを発揮して県全体で再生可能エネルギーを安定供給できるようにしてほしいと思います。そうすることで県全体に常時安定したエネルギーを供給でき「再生可能エネルギー先駆けの地」として世界に発信し、成功モデルとなることができるのではないでしょうか。

私はこの機会にSDGsについて学びました。学習を進める中で、私自身が今できることに取り組まなければならないと思うようになりました。例えば「ゴミ拾い」です。これは目標11、15に関係すると思います。

私は、自分にできることは確実に行いたいと思っています。私の行動を友人や所属している野球チームに広め、一緒に取り組むことで輪が広がります。その輪をどんどん大きくし、一人一人が自覚して実行すれば、福島は復興を遂げ、「エネルギー先駆けの地」として「福島」から「世界」に発信していくことができると思います。